

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

外部評価機関 NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

訪問調査日	平成20年 8月4日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ふぬいの里 (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>腰 高行</u>
	氏名 <u>藤田 泰洋</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> <u>事務長</u>
	氏名 <u>碓山 タヅ子</u> <u>碓山 泰幸</u> ヒアリングを行った職員数 3名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月5日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4678800154号		
法人名	株式会社 地域ケアささえ愛		
事業所名	グループホーム ふぬいの里		
所在地	鹿児島県大島郡龍郷町赤尾木134番地 (電話) 0997-55-4888		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月4日	評価確定日	平成20年9月6日

【情報提供票より】 (平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年4月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤12人、非常勤5人、常勤換算12.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	むかいクリニック 奄美市笠利国民保険診療所 水間歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、地区グループホームのまとめ役的な存在であり、職員も認知症高齢者の支援を向上させるという意識が高い。利用者とともに過ごし支え合う関係を最も大切にしている。地域との交流も盛んで、島唄や楽器演奏による利用者との交流、及び個々の能力に応じた脳活性化のための活動支援に力を入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の見直しなどに取り組んで改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価はユニットの多くの職員で取り組むようにしている。課題となる重要な項目は定例職員会で呈示し、意見を交換している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	会議では、利用者支援や地域との交流などの多くの意見が出されている。議論が白熱して長時間に亘ることもある。外部評価の結果も報告され、利用者の支援の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	面会時、家族会、運営推進会議など家族が意見を表出する機会が多い。可能なことはすぐ対応している。また、利用者支援以外の相談にも応じていて家族から信頼されている。苦情解決の第三者委員も選任されている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域に親しまれているホームで、地域との交流は盛んである。六月灯や八月踊りなどに利用者が参加したり、毎月のように地域住民の訪問などがある。

##

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 腰 高行 / 調査員 藤田 泰洋

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域の中で、人間関係を豊かにたもちながら」という、職員にも利用者家族にもわかりやすい地域密着型サービスの理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会で理念の唱和を行うことによりケアの基本に立ち返り、理念と日々の実践とのつながりについて共有を図るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	六月灯や八月踊りに利用者が参加したり、地域の人々も毎月のように踊りに訪れている。ホームで地域向けのコンサートが開催されたり、住民の認知症家族の会も設立されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を含め職員は、自己評価をすること、また、外部評価を受けることが支援の気づきになっていることを理解している。結果をケア会議等で協議してケアに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者支援や地域との交流などの多くの意見が出されている。議論が白熱して長時間に亘ることもある。外部評価の結果も報告され、利用者の支援の向上に活かしている。		

グループホーム ふぬいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームの管理者に市町村の担当者からホームにおける家族会設立のすすめ方などの相談を受けることもある。担当者とはよく意見を交換し、連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	独自の月次報告で、写真やお知らせ・入居者の暮らしぶり・健康状態などを報告している。定期的には”ふぬいの里たより”を発行して、職員の異動なども報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会、運営推進会議などで出された意見については、可能なことはすぐ対応している。また、利用者支援以外の相談にも応じていて家族から信頼されている。苦情解決の第三者委員も選任されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係づくりを図るため、各ユニットの職員を固定化している。職員が代わる場合は、業務も利用者との関係づくりも管理者が責任をもって対応し、入居者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、必要なテーマを決めて研修を行っている。外部研修も希望を重視して参加している。また、資格取得も積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会のまとめ役として、研修会などを開催し交流している。職員同志も事例発表会をして、サービスの質の向上の参考としている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者は見学でホームを訪れ、職員が何回も本人と会っている。入居はじめは、家族が毎日訪れるようにしており、夜勤者を2名にして部屋で一緒に寝るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームの一番大切にしている点である。島唄の歌詞や踊り、昔ながらのだし汁のとり方などを教わったり、日々を共に支え合って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの節目節目には、伝承を生かして各利用者の希望や意向に即対応するようにしている。意向の把握が困難な利用者には、家族と連絡を取り合い、よく話し合っって対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者の担当が、本人の状況や暮らしのあり方を面会時や電話で家族と話し合っている。毎月のケア会議で担当者の意見を聞きながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に家族や本人の要望を取り入れて、見直しをしている。変化のある時や緊急の見直しにも対応している。		

グループホーム ふぬいの里


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間体制の医療連携や通所介護との交流、通院支援や特別な外出支援、外泊の支援や家族の宿泊など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医で3カ月に1回は定期健診を受けている。受信結果も把握しながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームだからできることがあるとして、家族とともに看取りを経験している。重度化や終末期については家族会で話し合っている。また、主治医とも協議している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応をホームの一番大切なことと位置づけている。個人情報の取り扱いは入職時に守秘義務を教育している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「3食を入居者皆で共にする」ということをホームの基本とする以外は、本人のペースで生活している。業務とケアのバランスを慎重に配慮している。		

グループホーム ふぬいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会などの行事では、昔ながらの郷土料理を提供している。職員も介助だけではなく、ともに楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意向や季節に合わせた入浴の支援をしている。入浴中は会話が多く、笑い声が聞こえる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	当番、料理の下ごしらえ、配膳、片づけや洗濯物たたみなどの役割がある。また ジャガイモコンサートなどの楽しみや歌を歌ったり外出などをして気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの量販店で買い物をしたり、日常的に戸外へ出ている。また、アマミパークのイベント広場では地域の人たちと親しく話し合っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者は、自由に出入りができるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1ヶ月に1回自主訓練で担当者を決めて行い、年1回消防署立ち会いの訓練を実施している。食糧や水の備蓄もしている。		

グループホーム ふぬいの里

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけなじみの食事を提供し、栄養士の指導を受け栄養バランスを確保している。水分の摂取の記録もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館に、五感や生活感を呼び戻すための島唄が流れている。共用空間は、家庭的な雰囲気があり、落ち着いた採光で居心地よく過ごせるような配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビやタンス・仏壇などが持ち込まれ、入居者が自分の居場所として安心して過ごせるような配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。